



地球のいのちの営みと調和、融合して  
共に生きるコミュニティづくりの情報を発信する

# いのちの森通信

発行 / 公益財団法人いのちの森文化財団 〒380-0888 長野市大字上ヶ屋 2471 番地 2198 TEL 026-239-0010 FAX 026-239-0011  
ホームページ <http://inochinomori.or.jp> Eメール [zaidan@inochinomori.or.jp](mailto:zaidan@inochinomori.or.jp)

公益財団法人  
いのちの森  
文化財団



Vol. 56

2024. Aug.  
令和6年8月1日発行

編集 加藤晴基

## 混沌とした時代を 生きる

塩澤 研一

(公財)いのちの森文化財団代表理事  
(株)水輪ナチュラルファーム 代表取締役  
(有)グリーンオーシア代表取締役



昨年「失われた30年」について様々な方がこれについて論じています。政治、経済、環境、教育、農業、健康、医療などの分野においても、この「失われた30年」について論じられてはいますが、なぜそのような事態を招いてきたのかについては極めて曖昧な論評であり、また今後の道筋についても明確に論じているものは見当たりません。一般的な論評としては株価の低迷による疲弊した経済に加え、様々な分野に於ける日本国の国際的評価の下落です。この原因として政府や経済界の様々な政策判断ミスが続く国際的な信用が下落していることに起因していること論じています。

しかしながら、この問題が果たして単なる日本政府や日本経済界の政策ミスからくるものなのか、もっと次元の異なる国際的な金融資本を中心とした世界戦略絡んでいのかによっても判断が大きく異なるのではないかと感じているところではあります。とりわけ第二次大戦敗戦後の政策が必ずしも日本国民による独立したものでなく「国際化」の名のもとに日本としてのアイデンティティが失われてきた(失わされてきた)ことを感ぜざるを得ないからでもあります。ここ3年間にわたって行

われてきているコロナ騒動においても日本政府の政策と世界各国で行われている政策がかなり異なっており、パンデミック条約など日本国の独立性すら危ぶまれている現状に対する国民の意識の低さやメディアの論調にも驚きを隠せません。政財界の不祥事に対しても国民の視線は得たところに向いていないと感じます。マスメディアに於いては真実を覆い隠すことにエネルギーを費やしているようにすら思えます。見え透いたフェイクに対してもメディアは沈黙し、真実を語ろうとしていません。これを含めて私たちは再度人類の歴史を学び直す必要があるように思いますが、古代史を含めて残されている文献も時の為政者によって意図的に編集されてきたことを鑑みれば、文献のみならず諸外国の遺跡や様々な伝承も含め精査しなければなかなか真実は見えてきません。かつて戸隠神社宝物館で「古事記」「日本書紀」「先代旧事本義」「魏志倭人伝」などを参考文献として、その関連性や文献上の違いや共通点などを学び、古代史の真実を探るというフォーラムが開かれたことがあります。それぞれの文献の解説書の著者を講師に白熱した論議が交わされました。とりわけ国内における文献の内容のみならず外国の文献との整合性を調べてきますと時代や地域のすり合わせが見えてまいります。大変有意義な会であったと記憶しています。近年はさらに歴史は縄文時代にまでさかのぼりシュメール文明やインダス文明、ユダヤとの関係性やキリストの示した真義などについても様々な古代史を語る方々が真摯な議論を進められておられます。大変関心もあり、ロマンを掻き立てるものではありますが、人類の歴史から学びを深めつつこれからの時代をどのように展望していくのが課題だと思います。人類は様々な「共同体」を形成してきましたし国家や民族、教団などもその形態の一つであると思

いますが、はたして人類はこの共同体と個の関係性を止揚できてきたのかはいささか疑問です。その中において近年ふたたび「共同体」について様々なところで論じられていきます。この「いのちの森」も「共同体」のような見方をされることがありますが、私自身はこれについてはいささか異論をもっています。これは死生観や霊性の問題も含めて人類はまだまだ「共同体」を形成する段階にきていないと思っ

ています。これは死生観や霊性の問題も含めて人類はまだまだ「共同体」を形成する段階にきていないと思っ。これも共同幻想ともいえるのではないかと思います。親子という血のつながりも霊性の進化から見れば「固い絆」を超えたいわゆる熾烈な個の学びの縁でも表現できるのではないかと感じています。この事は「子は親を選んで生まれてくる」との例えに見ることができるのではないかと思

ます。歴史上の共同体がなぜ長続きせず栄華盛衰を繰り返してきたのか、人類の意識の進化はそれほど進んでいないのではないかと、これを繰り返しつつ地球は7度目の転換期を迎えているのではないかと、この見解を述べておられる方々もそれなりにおられることを見るならば、今まで私たちが捉えていた歴史観や世界観をここで一旦リセットしてゼロから考察し直してみることが必要なのではないかと思

います。私たちが戦後の教育やマスメディアからの情報が正しいと思っ込んで生きてきましたが、とりわけこの3年間に起こってきた出来事を深く洞察してみると矛盾だらけであることが見えてきます。AI技術の進化により医療業界においては40年50年かかって培ってきた判断力はずか数分で明確化されてしまおうという現実があり、車両の運行システムもAI技術により操作されており、故障の診断もAI技術を用いなければ人間の五感では判断すら不可能な時代になってきています。さらに人間の意識の操作までAI技術によって操作が可能

な次元の意識の進化なくして「共同体」を語れないのではないかと「いのちの森」がなぜ最も重いハンディを持つ人々をその活動の根拠に置いてきたのかを振り返ってみれば、世の中で「無価値」と思われる存在の中にこそ深い存在価値があることを生活の中で真に実感してきたからに他なりません。共同体を意識している方々がこの課題をどのように乗り越え実現されようとしているのでしょうか。世界に名だたる共同体といわれる所においてもハンディを抱えている人々の存在を含めて活動を展開しているところはまず無いといってもよいのではないのでしょうか。これは今後の高齢者の課題としても同じであろうと思

います。高年齢者は様々なハンディを抱えることでもあります。今の高齢者対策なるものは極端な言い方をすれば人口削減の最先端にあるのではないかと、この極論にも達してしまう可能性もあります。医療費の高騰、年金の削減、生活費の高負担などどれを取ってみても豊かな老後などイメージすらできないのではないのでしょうか。高齢者の生活において建物や土地があり介護があり、仮に生産活動があったとしてもそれは共同体とは言えません。単なる介護事業に過ぎないのではないのでしょうか。この事業の矛盾を覆い隠すものとして「宗教」が利用されてきたのではないかと

思います。ここで言う「宗教」と「宗教性」の微妙な違いを理解しなければただの「無神論」や「唯物論」に陥ってしまうことを理解しなければならぬと思

います。私も現在のような混沌とした時代に於いて何を基軸としているかといえは「衣食住の自給自足」を根拠にし、そこに学びと遊(アート)を中心とした感謝と祈りの5つの要素を内包した生活化が次の時代を形成する上で核になるのではないかと思っ

ています。9月14日から始まる「宇宙の叡智を地球と人類の目醒めのためにシリーズ9」は8回まで考察してきた縄文的霊性文明の夜明けをさらに進化させ、より具体的な行動指針を提示するものとして企画されています。講師にアーユルヴェーダ医師の澁谷のみ子氏とシッダールタ村越悟氏、縄文文明の研究者であり量子モナド理論を展開する画家・作家のはせくらみゆき氏、ホメオパシー協会会長の森井啓二氏、ケイシー療法法の第一人者である日本エドガー・ケイシーセンター会長の光田秀氏、呼吸道と古代文明の研究者でもあるイーハトーブ心身統合研究所所長の清水友邦氏、ライアー奏者の清水ブラダ氏、詩人でエッセイストの吉本由美氏を特別講師として開催されます。司会進行は本財団の理事である塩澤みどりさんと研一が務めます。この講座は一人一人の意識の進化といのちの繋がりを深め、真実に目醒めることを主たる課題として開催されます。混沌とした現代に於いて一人一人の目覚めを通して次なる時代を展望できるのではないかと確信しています。

です。私たちはすでに人生の大半を過ぎてきました。昨年他界された大阪盛和塾の代表世話人を務められた矢崎勝彦氏が私に残された言葉があります。それは「次の時代に伝えなければならぬことがある。次の時代に残してはならない責任を君はどう考えているのか」というものでした。私はこれを肝に銘じて使命を果たす覚悟でいま



このような視点に立つて再度地球・人類の歴史を捉え直す中で、「共同体」が語られなければ未来に対する展望は見えてこないのではないかと、この思いがあります。加えて人類の意識レベルはいまだ「嫉妬、妬み、やっかみ、支配欲、自己愛」のレベルを超えておらず対立と争いを繰り返しています。このよう

# いのちの森「水輪」 生き方・働き方学校 水輪での学び

スタッフ・研修生・実習生

## 生き方、働き方を学び さらに成長する

高木愛加



水輪では、「生き方働き方学校」の文字通り、皆、「生き方」と「働き方」を学んでいます。「生き方」と「働き方」は「生活力」「仕事力」として「人間力」の3つから成り立っています。何にも依存することなく、自立した精神と生活を持ち、そして世のため人のために自分の力を尽くすことができる人間になるためにはどう生き、どう働くのかということ日々の生活、実習、人間関係の中で学んでいます。

私は、生き方働き方学校に入学して一年になり、すでに肉体的にも精神的にも変化があらわれています。肉体的に言えば、筋肉がついたこと、体力がついたこと、この大自然に囲まれたフィールドで行われる実習は、畑作業や館内での実習を通して私達を肉体的にも鍛え上げてくれます。精神面については、精神科主治医の井上弘寿先生によるドクターカウンセリングと微細なお薬調整、そして水輪とともに生きる仲間たちと塩澤研一先生、みどり先生、早穂理さんのおかげで心が少しずつオープンになり、また自分自身が抱える心の病や課題も徐々に明確になり、



畑でのお野菜発送作業

「生きやすさ」になりました。入所前の私とは、世の中に「生きづらさ」を感じており、なんだから閉鎖的な空間のように感じ、まさに「息をしにくい」状態でした。承認欲求や自己主張、誹謗中傷にまみれた世の中に嫌気がさしていたのですが、そんな時に水輪に出会い、水輪という場所の「あり方」と、水輪にいるみんなの「あり方」にとっても救われました。濁りがないこの場所とこの仲間たちは私にとっての心のオアシスで、だからこそ1年と少ししかいない私でも、ここまで良い状態になれたのだと思います。

皆、大なり小なり何かしらの心の病や課題を抱えており、水輪にきて、人としてどう生きるか、どう働くかということそれぞれのフィールドで学んでいます。水輪はただ病や課題を克服してゼロにするだけではなく、更にそこから良くなるように枝を伸ばし、芽を出すようにプラスにしてください。教育が行われています。水輪での学びは、次に来る霊性文明、縄文的文明の時代に大いに生かされ、その先陣を切つて、皆を引っ張っていきけるものになると思います。中には辛い学び、苦しさをもって得る学びもありますが、それがすべて喜びになることを信じて、私は毎日水輪で学んでいます。



井上医師とのカウンセリング

## 仲間と共に生きる

坂口智則



私は水輪に来る前、長年のいじめで苦しんできました。その結果統合失調症になり、自殺未遂も3回繰り返しました。それを見かねた母が、わらをもすがる思いで、水輪を見つけて出し、私は母に説得され、ここ水輪に入学することを決断しました。私は、入学当時は体重が94キロもありましたが、なんと自分の将来をどうにかしたいという思いで、思うように動けないなりに、がむしゃらに実習をし続けました。その結果、9年経った今、体重は56キロまで落とすことができました。今では体が軽くなり、畑を走り回れるようになり、水輪には本当に感謝しています。

私が、主に学んでいること、それは「仲間と共に生きる」ということです。私には、子供のころから腹を割って話せる友人は居ませんでした。私が友達と思っていたのは、ゲームや漫画の架空の存在のみで、水輪のような腹を割って話せる仲間は居ませんでした。水輪に来て、最初の頃は同じ屋根の下で生活しているだけの同居者という認識だけでしたが、一緒に生活し、苦楽をともにし、時にはぶつかり合うこともあり、仲間とのミーティングを通して、お互いに何が良くなかったのか、今後はどうすればいいのか、といった全体を良くするために話し合うことで、お互いに成長し、高め合っていく場所なのだとすることがわかりました。今の世の中にはとても貴重な場所だと思います。外の社会では、自分以外の全てはライバルです。そのような場では本心に心を高めることはできないのではないかと感じていました。

こそ強くなれます。時々、人にとつて、強さとはなにかを考えさせられます。単に腕力だけ強いのでは本当の強さではなく、人として求められる強さは心の強さではないでしょうか。人は必ず失敗をします。しかし、失敗してもその後立ち上がる事ができる強さが重要ではないでしょうか。「技術ややり方だけでは何も成し遂げることができず、そこには心が必ず必要。」今の私にとってファミリーほど守りたいものはありません。だからこそ、仲間のために強くなりたと思うし、今のその過程にあります。そして、今それを学んでいる最中です。大切な存在のためにもこれからも精進していきたいと思えます。



オアシス厨房で学んでいる坂口さん

## 実体験を積み重ねる

井藤次晴



私は、直感でここ水輪に来ました。水輪に来た目的は主に2つあります。1つ目は皆を愛する心、協調性、奉仕の心を育みながら、実践的な生き方を学ぶため、言い換えるなら霊性を高めるためです。2つ目は、自分自身の人生や世の中に対して後ろ向きになつたり、悲観的になつたりするのではなく、希望を持つて明るい今と未来を歩めるようになるためです。今、私が水輪で学んでいることは、「淡々と実体験と実践を積み重ねること」です。



みんなで息を合わせて踊るソーラン節

この水輪のすべての活動の根底には、人格を高めること、人間性を磨くこと、魂の成長というものがあります。そして「実践」があらゆることの土台として成り立っています。日々体を動かしながら様々な実践を積み重ねて生活している中で、自身の中で感じた大きな変化があります。それは、これまで私にどうしてもありがなかった「世の中が狂っているから」という考えから、目の前のことや身の回りのこと、周りの皆に意識が向くようになったことです。「結局は実体験でしかなくてどのよな実体験を選んで、自身がどのように生きるのか」ということを考えるようになり、情報過多で頭でっかちになりがちの中で、一步一步本当の意味で自分の人生を歩めている感覚が芽生えました。この変化は自分自身にとつてとても大きなことでした。

【たくさんさんの講座を開催予定】ぜひ水輪で、新しい学びと気づきを。皆様のご参加をお待ちしております。詳細は↓水輪ホームページから <https://sun.com>

【ご支援の方法】  
▼郵便振替用紙にてお振込みの場合は、振替用紙に寄附先①～④をご記入の上、お振込みをお願いいたします。  
▼銀行振込み・電信振込みの場合は、財団事務局までホームページ・メール・FAX・電話（1ページ目参照）にて寄附先①～④をご連絡の上、お振込みをお願いいたします。

【お振込み先】  
● 八十二銀行 本店営業部 普通 1093531  
● みずほ銀行 長野支店 普通 1991794  
いずれも名義は「公益財団法人 いのちの森文化財団」

### 公益財団法人 いのちの森文化財団からのお知らせ

公益財団法人 いのちの森文化財団では、以下の公益目的事業への寄附金を募集しています。

- ① 「高齢者のための生きがい創造基金への寄付」
- ② 「青少年の社会復帰と自立のための育成活動への寄付」
- ③ 「東日本大震災被災地の子供たちの教育を支援する活動（保育園へのお野菜支援含む）」
- ④ 「いのちの森の会費（一般寄付）」

※当財団への寄附金及び会費は、特定公益増進法人への寄附金として、所得税・相続税・法人税の税制上の優遇措置があります。また一部の自治体では、個人住民税の寄附金控除の対象となります。（詳細は善意の循環のチラシをご覧ください）

